

今月10月は、乳がん検診率の向上を目指す全国規模の「ピンクリボン月間」。県内でも、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝える様々なイベントが開かれている。近年、日本人女性に多いと注目されている、マンモグラフィだけでは異常が見えにくい「高濃度乳腺」についての啓発も始まっている。(都梅真梨子)

## とちぎ健康録

県内の乳がん検診率を全国初となる50%にまで引き上げることを目標に活動しているNPO法人「ピンクリボン」つのみや」は15日、宇都宮市の「とちぎ健康の森」講堂で、一般向けの大規模なセミナーを開いた。講師を務めた同法人理事長で宇都宮セントラルクリニック代表の佐藤俊彦氏は、「乳がん検診は高濃度乳腺との戦いだ」と強調した。

欧米人の女性性は乳房に脂肪が多いが、日本人女性の半数以上は乳腺の密度が濃く、マンモグラフィでエックス線撮影しても、全体が真っ白に写ってしまう。同様に白く写し出される乳がんの「しじり」と判別するのは困難だ。近年は豊胸手術をする女性も多く、シリコンなどで押し上げられた乳房も、乳腺が狭い範囲に凝縮してしまつたため見えにくいという。

超音波検査を併用すれば、早期がんの発見率が1.5倍になるとされるが、国の指針はまだそこまで迫っていない。40歳以上の女性に2年に一回、マンモグラフィと問診、視触診を実施し、結果は「要精密検査」「異常なし」のどちらかで伝えるように定められている。

読売新聞のアンケート調査

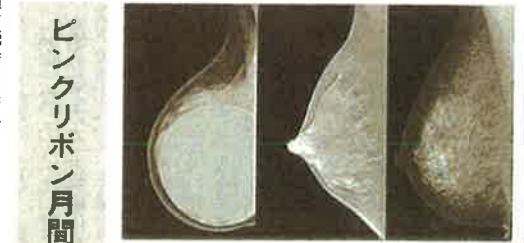
# 乳がん検診 超音波併用を



セミナーには乳がんに関心のある女性が多数訪れた(15日、宇都宮市の「とちぎ健康の森」で)

によると、全国の主要自治体の約7割が高濃度乳腺で見えにくかったとしても「異常なし」と通知しており、医療関係者からは「心苦しい」との声が漏れた。

県内では、宇都宮市も国の指針にのっとっており、高濃度乳腺への対策はまだとられていない。マンモグラフィが導入された2004年当



## ピンクリボン月間「高濃度乳腺」対策課題

時、高濃度乳腺や医師が少ないうち、超音波のみで対応していた他市町は、マンモグラフィがそろったいま、超音波との併用ができていない状況だ。この逆転現象を解消しようと、宇都宮市は来年2月、医師ら約10人による「マンモグラフィ」運営委員会を開き、超音波との併用や高濃度乳腺を通知する仕組みづくりを検討

討する。同市健康増進課は自治体の規模も大きく、機器や医師の確保、費用の面で検討に時間がかかる。乳がんが気になる人は、乳腺外来で任意の検診を受けてほしい」としている。

場合、どちらか一方でも異常が認められれば「要精密検査」とし、両方に異常が認められた場合は重い方を通知している。ただ、不要な精密検査が増え、個人負担が増大したり、病院が混雑したりする可能性があることから、来年度からは、両方の結果を医師が総合的に判断し、結果を通知するという。

## 早期発見「治る代表的がん」

13年に本県女性で、新たにがんと診断されたのは5334件。最も多かったのが乳がんで、20%を占めた。ただし、がんで死亡した2290人のうち、乳がんは8.2%にとどまった。

「これは全国的な傾向と一致しており、宇都宮セントラルクリニックの乳腺外来で常勤医を務める竹原めぐみ氏はセミナーで、「乳がんは、かかる人は多いが早期発見で治る代表的ながん」と位置づけ、

紹介した。一方、14年度の県内の乳がん検診率は31.8%と、全国平均の18%を上回ったが、地域によって大きな差がある。人口が多い都市部の検診率が必ずしも低いわけではなく、

様々な工夫をしている」と指摘する。上位の日光市や大田原市、那須塩原市は「女性のみ」のがん検診日を、矢板市は女性が5種類のがん検診を同時受診できる日を、それぞれ多数設けた。上三川町は、町の負担で、国の補助対象外の人にも乳がんの無料受診クーポンを発行したという。



ピンクリボンつのみやの佐藤理事長(宇都宮セントラルクリニック提供)

乳がんの検診率(2014年度)

市町	%
日光市	67.2
市貝町	59.5
矢板市	53.9
大田原市	51.4
那須塩原市	50.6
上三川町	48.8
那珂川町	41.5
さくら市	41.4
益子町	40.5
下野市	39.8
芳賀町	39.5
壬生町	37.4
真岡市	36.6
塩谷町	35.4
那須町	34
小山市	32.4
足利市	30.1
高根沢町	30.1
野木町	29.2
栃木市	27
茂木町	23.1
宇都宮市	21.3
那須烏山市	19
佐野市	18.3
鹿沼市	10.2

※県がん検診実施状況報告書から

栃木